

ミネロスキー場～沼の平コース 佐藤 伸也

■山行年月日:平成 30 年 3 月 3 日
～4 日

■メンバー:大竹幹衛 大竹尚子
宮城市作 佐藤敏二 佐藤利伊
保科勝人 杉崎圭洋 佐藤伸也

8 時過ぎにミネロスキー場へ。晴天なので 3 月とは言え思ったよりスキー客が多い。リフトを二本乗り継いで国体コース上部にたどり着く。この急斜面を歩かなくて済むのは大いに助かる。ここからまっすぐ赤埴に行けないわけではないが、登り始めが急なので、猪苗代スキー場までトラバSRートを進む。最上部のリフトはかなり以前から休止しているようで、磐梯山登山はミネロからが正解だ。

赤埴山には登らずに夏道沿いにトラバSRートを進むと、磐梯山の雄大な東壁が見えてくる。鏡沼を過ぎた沼の平の縁の岩場の横(約 1400m 地点)を本日の幕営地と定め、さっそく設営に取り掛かった。以前に何度も幕営した場所だが、ここからの東壁はいつ見ても素晴らしい昼食後、幹衛さんはツボ足で私は山スキーで東尾根の下見に出かけることにした。尾根そのものは狭いが、やや南寄りの斜面は樹木もまばらで山スキー向きの傾斜だ。しばらく進むと上部から窪田さんがスキーで降りてきた。裏磐梯から入山したとのこと。山頂直下の急斜面で転倒してふくらはぎを強打したとのことだった。足をかばいながらの滑降は



痛々しくいつもの華麗な滑りとは程遠いフォームで降りていった。トラバSR地点の手前の 1600m 地点まで登るとさらに展望が開け、絶景を楽しむことができた。見下ろすと沼ノ平のテントが小さく見えた。ここから引き返し、BC に戻ると後発の保科さんと杉崎さんが到着していた。さらに遅れて天狗登攀帰りの斎藤憲・堀江の両氏も合流し、尚子さんの愛情のこもった手料理に舌鼓を打ちながら 60 周年を祝う宴が始まった。

翌朝も快晴。朝日に赤く染まる東壁に魅了される。朝食後、裏磐梯、斎藤憲・堀江P は東壁、保科さんはテント滞在など、パーティーごとに東壁や裏磐梯へと向かったが、我々は東壁から頂上を目指した私は山スキーで 1650m 地点まで登り、スキーをデポシアイゼンを装着する。前日の窪田さんの大滑落の跡を見ながらトラバSRし尾根伝いに山頂を目指す。締まった雪にアイゼンが心地よく食い込みどんどん高度を稼ぐことができた。高度感が背後の猪苗代の平野や湖を際立たせる。9 時 30 分過ぎに山頂に

立った。3月初旬とは思えない穏やかな
天気で飯豊や吾妻・安達太良をはじめ
360度の大パノラマを楽しむことができた。

BC 手前で、桑原さんと出会う。何十
年ぶりだろう。差し入れにと「獺祭」を
いただく。BC に戻ると今朝登ってきた
平田さんや須藤さんなどたくさんの会員
に出迎えられた。テント撤収後にみんな
で記念撮影をしてから下山開始。樹木
や急斜面と格闘しながらスキー場下部
までたどり着いた。久しぶりの会の山行
だったが懐かしい面々と会うことが
できたことに加えて、好天に恵まれた冬の
磐梯の大自然に同化しながら有意義な
登山をすることができた。

